

グループホーム すまいる

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に映写会を企画し、地域の高齢者の方々が気軽にすまいるに立ち寄り、入居者の方と一緒に映画を見られお茶を飲んで帰られるなど 地域の方がほっと一息できるすまいるを目指し 取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については項目毎にそれぞれの職員で振り分けて記載したものをまとめ全職員で内容を再検討しながら作成した。昨年の改善点についてもみんなで検討して、改善に向け、取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では 行事報告やすまいるでの食の取り組み 個別対応などを行った。参加者の方々があまり見る機会のない食事を数日分写真に撮り見て頂いた。興味深く見られる方もいた。		もっと地域の方に参加して頂けるよう働きかけていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催するイベントへの参加依頼があれば積極的に参加したり、法令に関する事などで不明な項目があれば市の担当者に聞くようにし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内での研修会に参加し、その研修に参加できない者は後日DVDを観て学ぶようにしている。又すまいる内でも勉強会を行い、必要な人があれば活用できるような体制作りをしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し 全職員が周知徹底している。又法人内の抑制廃止対策委員会にも職員が3ヶ月毎に出席し、スピーチロックについての意識調査等をすまいる内で報告している。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時十分説明をして契約を結んでいる。介護報酬の見直しの時期には 家族会等で説明している。看取りや医療連携等についても説明し 分からない事があればいつでも理解していただけるように 説明する旨つたえている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に時間を設けてはいないが おやつの中には できるだけ利用者の方々と色々な話を職員と交わしている中で意見や不満苦情などを出しやすい雰囲気作りをしている。会話の中から出た事柄を 職員がくみ取り反映できるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪される度に日々の健康状態や暮らしぶりをつたえている。また担当者会議や3カ月毎に出すすまいるだよりで報告している。家族会でも定期的に関いて行事報告や金銭の出納ノートの確認と押印をお願いしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や担当者会議等で意見 不満 苦情等が出た場合 管理者や職員が真摯に受け止め どのように解決するか 場合によっては法人内の苦情担当者に相談するようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング 法人内の年2回の個人面談や提出する自己評価表をどうして職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	認定調査や担当者会議や内科受診等のご家族の要望に合わせ 行事や催し 入居者の状況や職員の急な休み等 臨機応変に対応している。職員とも勤務の調整の話し合いをおこなっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近では退職者は出していないが 産休等で休む場合はご家族にも伝え 引き継ぎをして利用者へのダメージを防ぐように配慮している。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用については 法人内で移動したり 募集された中から採用が決定しており グループホームで年齢や性別等の要望は特にしていない。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>すまいるは抑制廃止宣言をしており 抑制や虐待等の研修を行って どういうことが抑制や虐待になるのか勉強している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人職員の研修はマニュアル化されており その後は法人内の研修やグループホーム協議会 社会福祉協議会等の研修へ参加できるように勤務を管理者が配慮している。又非常勤の職員も研修や話し合いに参加できる様にしている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会し 研修会等に参加し Bグループのグループの見学会や情報交換の話し合いに参加しサービスの質の向上を目指し取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年2回の面談があり 法人内の看護部長や管理者が職員の話聞いて対応されている。又管理者や職員間で話しやすい雰囲気であり 休憩室と決められた場所はないが 入居者と一緒に ソファに座って 寛いでいる。</p>		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の面談や法人に提出した自己評価表等をどうして 各人の状況を把握し 働きながら資格取得のできるようにつとめている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や入所申込時等にご家族と一緒に来訪された時は、本人の話を聞いたり 本人の状況を把握して職員が受け止めるようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時や入所申込時等に ご家族の不安や思いを聞き グループホームの情報も提供してご家族との意思の疎通が図れる様にしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に相談話し合いで 必要としている支援を理解し対応できる様につとめている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学等に家族と一緒に来訪され 職員とも話をしたりして馴染みの関係を築けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人や家族から聴取した生活歴等を参考にして本人の「喜び」や「楽しみ」等を寄り添って聴き 得意な家事や趣味等が出来るように支援している。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出 家族会等の参加を呼びかけ ご家族と本人が疎遠にならない様に 機会ある度に 本人の状況や思いを伝えている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時 日々の暮らしぶりや 本人の思いや 状況等を伝え すまいるの広報誌や すまいるだよりで本人の近況を知らせたり 電話や手紙をだしたい希望がある時は支援しています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が来訪時はお茶や椅子を居室に運びゆっくり出来るような雰囲気づくりをしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の状態も日々変化するので 情報を職員間で共有し おやつの時間や 様々な時間に円滑に 利用者同士が仲良く過ごせる様に努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移られた後も ご家族や本人に会える機会があれば 出来るだけお話をするようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつ時間 入浴中 家事の間などの日中の表情や会話 又 ご家族から本人の思いを聞き 利用者本人の思いを把握するようにしている。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時 センター方式を活用し 家族に分かる範囲で これまでの生活歴等を聞き取り記録している。又本人に日常会話の中から聞いた事を記録し 職員全員が情報を共有してこれまでの 生活環境やサービス利用の経過の把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が入居者の一人ひとりのその時々の状態を観察し 出来ること 出来ないことを見極めて支援している。又変化があれば日々の申し送りに記録しいつでも入居者の状態が分かるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員間での個別処遇の話し合い 本人家族の意向 家族や担当者 ケアマネを交えての担当者会議等を基に希望に添った介護計画を作成するようにしている。		面会の少ないご家族が居られるので ご家族の思いが十分くみ取れるように 来訪時や通信等で話が出来るように働きかける。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回のモニタリングで介護計画の見直しをしている。入居者に変化があればその都度家族にも報告し 職員間でも話し合い 現状に即した新しい介護計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に健康チェック表を用意し食事・水分量、排泄等身体状況等を記録し 又個別にファイルを用意し 日々の暮らしの様子や本人の言葉 エピソード 職員の気づきや状態変化などを記録し 職員間で情報を共有している。個別記録を基に介護計画の見直しをしている。		
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在ショートステイ等は満室のため 受けたことがないが 将来認知症のデイ。サービス等多機能性を生かした活動が出来るようにしていきたい。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
youi				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力で利用者の希望の習字を教えていただいている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が骨折後 慢性疾患の通院が困難となった為 通院可能な病院併設の介護施設に入所できるように 他施設のケアマネジャーと話し合う等の支援をしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在 特に地域包括支援施設と協議したことはないが 必要な状況になった時は 協議していきたい。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療機関に受診していただいている。月1回 内科受診時は 家族と職員と一緒に付き添い 眼科や耳鼻科は家族の付き添いで受診してもらっている。歯科受診は隣に受診される場合は職員が対応している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科受診時に認知症の状況も説明し 相談している。現在申し込み者の中に専門医に治療を受けてある方が居られるので 関係を断ち切らないように支援していきたい。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の病院より 週1回定期的に看護師が来訪され バイタルチェックや体調の観察等健康管理を行い 場合によっては 医師へ報告し医療との連携の支援をしてもらっている。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院された場合 病院への面会時等に 医師や看護師と情報交換や相談を行って 早期退院が出来るように働きかけている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご家族と重度化や終末期の意思を確認しながら 利用者が安心して過ごせるように 医療機関の医師や看護師と連携をしながら 急変時に対応できる様に 話し合いをおこなっている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期の指針について 家族会で医療機関の医師や看護師を交えて話し合いを行っている。終末期の医療処置や介護について ご家族と随時話し合いをもって 安心して過ごしていただける様に 職員間で支援の検討をしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えの状況になった際 移転先に出来るだけ 本人の情報や ケアの工夫等伝え 引き続き 安心して生活できる様に 支援しています。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>従業員規則に守秘義務があり 個人情報に関する事は 他の家族や外部の者には 話さないようにしている。トイレ誘導などの声かけには 本人を傷つけないように配慮している。個人情報(写真の掲載等)は前もって 本人や家族の了解を得ている。</p>		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	週1度の買い物は 利用者本人が好きなパンを選べるように商品の説明をしながら待つようにしている。入居者の誕生日には 好きな食べ物を聞いて 一緒に作ったりしている。食事や飲み物の嗜好を聞いたり 入浴時も本人に出来る範囲で希望の時間に入れる様に支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は起きて準備のできた方から 食べていただき あまり遅い方にはさりげなく声かけし無理強いしないようにしている。。買い物や散歩等一人ひとりの体調や思いに合わせて支援を行っている。		
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分の好きな服を選んで着てもらっている。朝 鏡の前でブラシを渡し 髪を整えてもらう様にしている。また カットや顔そり 白髪染めも本人の希望で出来るように 業者に来てもらっている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の力に合わせて野菜切り盛り付けや配膳お茶碗拭き等を職員と利用者と共にしている。時にはご家族からいただいた野菜でメニューを相談しながら決めることもある。さりげなくサポート出来る位置に職員を配置し入居者の方と一緒に楽しみながら食事が出来るようにしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事やお茶は熱いもの冷めたもの等好みに合わせてだしている。飲み物も緑茶 牛乳 麦茶等好みに合わせている。		今のところ 飲酒 喫煙の習慣のある入居者方は居られないが 今後 習慣のある方が入居されれば状況に合わせて支援したい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを作り個別のパターンを把握し日中や夜間 定期的に誘導したり 随時誘導したり 各自の排泄状況に合わせている。失禁パンツやリハビリパンツを使い分けるなど気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まっている入浴の時間帯のなかで一人ひとりの希望やタイミングに合わせて気持ちよく入ってもらえるように支援している。入浴準備等自分で出来ることは自分でしていただけるよう その方の状態に合わせて 見守りや介助を行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごす方が ほとんどだが 体調や気分によって いつでも自室で休息できるよう見守りや働きかけを行っている。又なるべく日中の活動を促し 生活リズムを整えながら 夜は安心して安眠できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日中は 洗濯たたみや野菜切 体操などを行い 一人ひとりの体調や状態に合わせて出来ることや役割をつくって過ごしている。一人ひとりのペースを見守りゆったり過ごしながらも 活気の有る生活を送れるように支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が自分でお金を管理することは難しく 家族より管理者がお金を預かり管理している。買い物に行きたい時や外出の際に 入居者が必要に応じてお金を使えるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節によっては 日常的に外出しているが 曜日を決めて 毎週日曜日に 直ぐ近くのコンビニへ職員と入居者と買い物に出かけ 買い物の支援をしている。又車でスーパーへ出かけている。		自分から何処かへ出かけたいと意思表示出来る利用者は少なく 外出をなかには 拒否される方もおられる。又屋外では歩行困難な方が多いので職員がリスクのない支援をできるように外出日に勤務体制を整えたり 家族の協力やボランティアの受け入れをしていきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の花見など年に何度か計画をたて 全員で車で お弁当を持って外出を行っている。その際には 状況に応じて家族にも声をかけ外で過ごす時間を楽しめるよう支援している。		同上

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望で事務室の電話を利用してもらい 難聴の方にはホーンを大きくして聞き取りやすいようにしている。年賀状など全員出せるように支援している。		入居者の様々な状況から電話や手紙の支援も難しくなりつつある。家族に対して職員がフォローしながら入居者の気持ちを伝えることが出来るように支援していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人などが いつでも尋ねて来られるように 訪問時間は自由となっている。リビングや個人の居室で お茶を飲みながらゆっくり過ごせるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や抑制の廃止宣言をしており それに沿って 職員は日常取り組みを話し合ったり 委員会や研修会に参加して日ごろから意識もってケアを行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら さりげなく一緒について行き 見守りをしている。夜間は鍵をかけないで安心して休めるように声かけをしている。		現在 玄関は日中鍵をかけていないが 門扉はかぎをかけている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在確認を常に意識し本人のプライバシーに配慮しながら さりげなく見守りを行っている。特に夜間各居室の中での安全確認が難しいので頻回に見回りするなど注意している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの生活において危険な要因となるものを把握し あれば直ぐに取り除くのではなく 裁縫道具など必要な物は 本人と相談して 職員が預かり 必要な時に 見守り支援している。又は職員や家族の方で一時的に保管管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は安全対策の委員会や研修会に参加 知識を深め 非常時の対応に備えるようにしている。又家族に転倒やけが等のリスクの説明を 職員はヒヤリハットを作成し防止策について検討している。防災訓練を定期的に行い入居者の動きを予想し 対応について考えるようにしている。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署や社会福祉協議会の救命救急の講習に参加し 日頃から急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し 緊急時の連絡方法を周知している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については 昼夜の避難訓練を年2回行い 消防署にも協力をお願いして 避難経路の確認 消火器の使い方の訓練を行っている。地域の方の協力を得られるように働きかけている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者一人ひとりのリスクについて常に ご家族と話し合い 本人やご家族の納得の上 安全の為に工夫や見守りを行い 定期的に見直しをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの既往歴や現病歴を把握し 水分・食事の摂取量 バイタルチェック 体調の変化等に気付いたら 管理者に報告し 職員間で情報を共有し 早期対応が必要な場合は ご家族に連絡し 医療機関を受診する。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科受診時ご家族と一緒に付添 医師に把握した日常の変化や異常を報告し 直接医師より病状や薬の内容を聞き 服薬時の注意や容量の変更を全職員が把握し確実に本人が服用できる様に工夫している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認の難しい方も居られるので確認の出来るような工夫をしている。食事のメニューに繊維の多い食材や乳製品を出来るだけ 使用している。排便困難な方には内科受診時に医師に相談している。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣や 歯科医師指導の元 毎食後もしくは就寝前に口腔ケアの支援介助をおこなっている。就寝前には義歯を預かり洗浄を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量を毎回チェック表に記入し水分摂取量の少ない方については 好みの飲み物に変えたり 味を変えて飲みやすくしている。又栄養摂取についても一人ひとりの状態に合わせて 食べやすい形に変えたり 栄養補助食をつけたり 場合に依ってはトロミを使用している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内やその他の感染の研修会があれば参加している。マニュアルやルールがあり 職員全員で予防意識をもっている。感染の流行等に対応出来るように 常に情報を法人内の病院等から得て マスクや食料等の備蓄をしている。入居者や職員共に季節インフルエンザの予防接種を受けている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は殺菌処理しチェックリストで確認している。食材については 日付をつけて鮮度が落ちない内に使用している。食中毒予防の為 食材の保存方法や手洗い等は徹底して行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車イスで通るスペースの確保をしながらも 季節で花を植えて明るい玄関を心がけている。道路側にはとおりすがりに見えるよう案内板を設置し定期的にイベント等告知している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の飾りつけは 季節に応じて入居者と クリスマス お正月 七夕等飾りつけをおこなっている。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に なかなか馴染めない方にも 廊下や玄関の外や庭にイスを置いて仲の良い方と話をしたり 静かに庭を眺めたりできるように工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご先祖様を敬うような飾りつけをされている方々には お酒やお茶 水等のお供えのお手伝いをしたり ベットの高さや位置など本人や家族と話し合いながら居心地よく過ごせる工夫をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時には窓を開けて換気をし 室温調節には外気温と大きな差がないように 冷暖房も使用し 特に冬の乾燥時の湿度確保に工夫をしている。各部屋にも 窓の開閉が出来ない寒暖時や 風邪等の時には換気扇を使用するようにしている。		定期的な換気の実施
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内の廊下やトイレ 浴室等 手摺を設置し 車イスでも楽に利用できるようにトイレや浴室にはスペースを確保している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレが分からない等あれば 工夫をして 混乱や失敗を防いでいる。夜間はトイレの場所が分かるように灯りを常時つけている。問題が起こった場合は その都度 職員で話し合い 後回しせず 解決できるようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の花や野菜を入居者 家族 職員が一緒になって植え替えしたりしている。日ごろから直ぐに 楽しめるよう 廊下にはイスを置き 色とりどりの花や成長する野菜を楽しんでもらっています。		今年 庭の玉じゃりスペースをセメントにして 車いすでも庭に出やすくなり 庭で収穫の野菜や季節の花をたのしんだり 家族とバーベキューをたのしんだり 花火やそうめん流しをしている。

グループホーム すまいる

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム すまいる

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な環境の中で、利用者の方々に意向を聞きながら 毎日を活気があり、楽しく穏やかに過ごして頂けるよう 職員一丸となり取り組んでいます。又、地域の方々が気軽にすまいるに立ち寄って頂ける雰囲気作りを心掛け、努力していきたいと思っています。